

次の日本文(A),(B)の下線部の意味を英語で表せ。ただし、(B)では、文学部志願者は(イ)を、それ以外の学部の志願者は(ロ)を読んで解答せよ。

(A) (すべての学部の志願者)

よい医者といえ、病人の健康を増進し、保持するために、診断や投薬をするであろう。医者によさは、健康のため、健康という目的のためにある。健康のためによいことをすすめるのが、よい医者である。病人が食欲を満たすことに快感をおぼえていても、健康のためでないなら、病人の意に反してでも、医者は節食や減食をすすめなければならない。病人にとり不快であっても、病気が重くなり、より大きな不快をまねくということのないように、医者は健康という目的に忠実でなければならない。

(B) (イ) (文学部の志願者)

目の前に人生の新しい道がひらけている。左はなだらかで、楽しく口笛を吹きながら行けそうな道。右ははるか先の峠まで、険しい起伏が続いている坂道。

誰でも、できるだけ労少なくして、より多くの結果があがる道がいい。だから、とかく楽な左の方を選びがちなのが人情であろう。

けれども、自分の真の向上、成長のためには、やはり苦しい体験も必要だし、楽な道がいつまでも同じように続くとは限らない。

大事なものは、楽かどうかではない。平坦でも坂道でもいい、その道が自分のやりたいこと、なすべきことに通じているかどうかである。それがすぐにはわからない場合もあろうけれど、ともかくも自分がこれだと思ふ道を、心を定め腹を据えて、一步一步着実に踏みしめていく。そんな思いを改めて確認することが、旅立ちの季節にはやはり必要なのではなかろうか。

(ロ) (文学部以外の学部志願者)

人間性をとりもどすために、われわれは生活をもう一度根本から考え直す必要があると思われる。社会全体についてはどうしようもないなら、せめてその中で受動的に流されっぱなしだった自分自身の生き方だけでも、自分で納得のいくものに組立て直したい。過剰の中にあってそれが自分を幸福にも豊かにもしてくれない、いや、それどころかもはやこれ以上このままではやっていけないと感じている以上、自分の意志で生を納得しうるものに再構築することが、自己に対する義務だと思われる。